彩の国
埼玉県

令和元年東日本台風（台風第19号）
砂防関係施設の整備効果

河川砂防課

砂防関係施設を整備して人的被害を防止

過去の土砂災害被害

○明治以降では、昭和43年、昭和13年、昭和22年の災害が特に激甚である。

特に激甚であった災害時における総雨量と死者・行方不明者一覧

年次	総雨量	死者 行方不明者
明治43年	１，２１６mm（名栗）	347名
昭和13年	４９２mm（大滝）	74名
昭和22年	６１１mm（秩父）	101名

昭和22年9月の災害のようす（横石沢（二二九沢））

砂防関係施設の整備とその効果

土石流対策
砂防堰堤（滝山・萬開沢（ときがわ町））

地すべり対策
集水井（桜ヶ谷（皆野町））

がけ崩れ対策
崩壊土砂防護柵（下モ（ときがわ町））

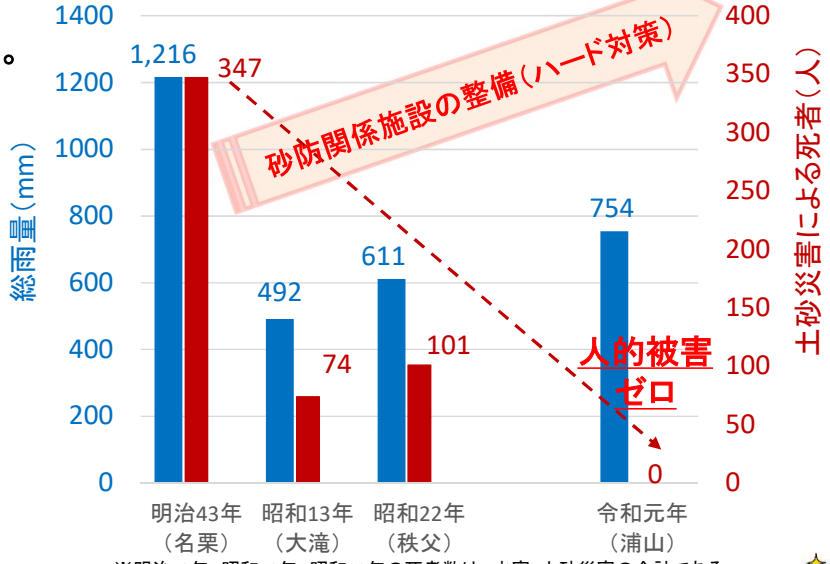
○令和元年東日本台風では、
県内13市町村で28件の土砂災害が発生したものの、人的被害はゼロであった。

皆野町金沢地内（がけ崩れ）

秩父市別所地内（地すべり）

飯能市唐竹地内（土石流）

台風による総雨量と土砂災害による人的被害
（過去の台風被害との比較）



※明治43年、昭和13年、昭和22年の死者数は、水害・土砂災害の合計である。

○砂防関係施設の整備により、人的被害を防いでいるトン！